



6月号

平成2年6月1日
発行／編集
岡崎市教育委員会

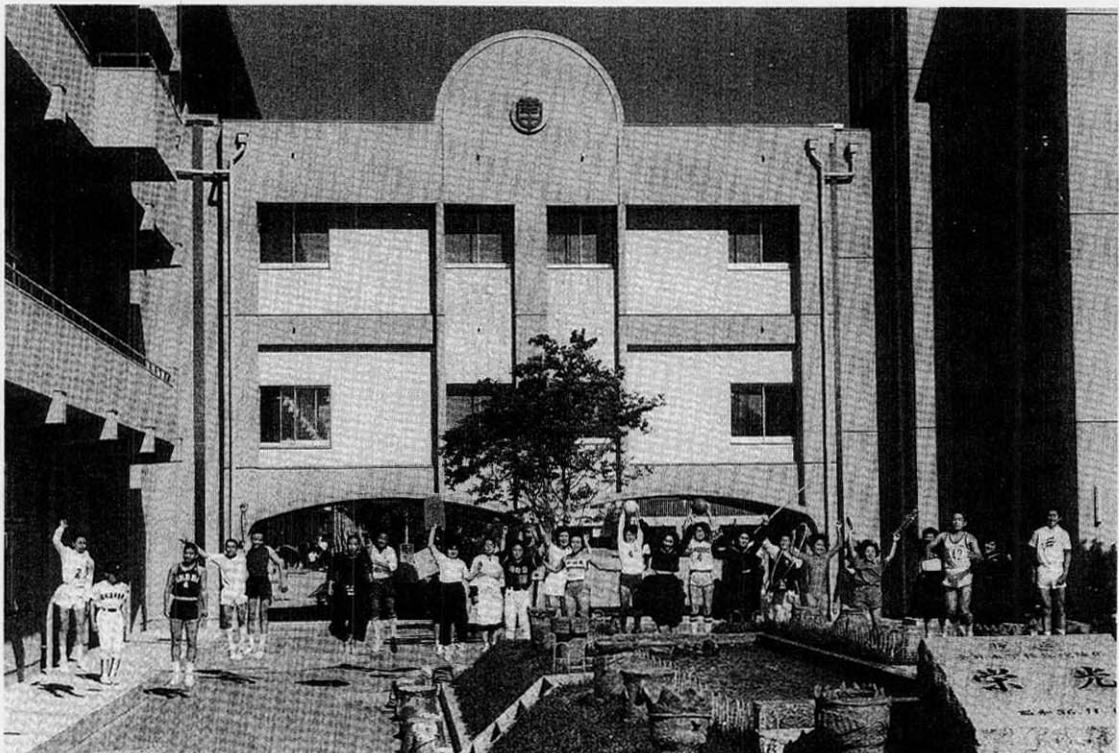
小さな肩を震わせ 一点を凝視し
口を堅く結んでいる
「悟君どうしたの」
目に涙が溢れている
何でもないと首をふる
何があったのだろう
悟のお母さんが言つていた
「友だちづくりが下手な子で」
「お兄ちゃんだからね がんばって」

その小さな胸に
どんな苦しみを抱いているのか
閉じられたままの悟に向かう
はがゆさ 淋しさ

深夜の帰り道
悟の部屋にあかりがまだついている

「先生あのね」
悟の声がしたような気がした

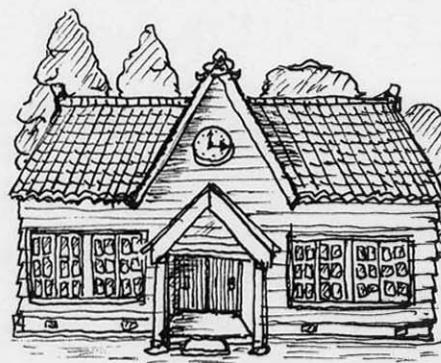
（悟）



(栄光へ ジャンプー 南中)

夏になるとよく旅に出かけます。絵の制作のための取材旅行ですが、近年はシルクロードづいています。それは過酷な自然の中の旅ではありますが、かの地の人々の温かな心づかいにひかれてのことだと思います。

なかでも先年、敦煌火車の旅にて途中下車した、現地通訳の少女の姿にびっくりました。姿は美しく忘れることができません。その日は暑く、出発の遅れた上海からの火



一 教育隨想

旅に思う

成瀬 光男

たない日本語で一生懸命、にこやかに語りかけているではありませんか。その思いやり、心づかいのその姿にひどくうたれました。

昨年の印度アジャンター、エローラへの旅では、次のようなことがありました。同行の方々と見学し、その石窟内の仏像等を写生しているうちに、いつしかみんなとはぐれ、一人になつてしましました。こここの石窟群はどこもみな真っ暗です。

昨日の印度アジャンター、エローラへの旅では、次のようなことがありました。同行の方々と見学し、その石窟内の仏像等を写生しているうちに、いつしかみんなとはぐれ、一人になつてしましました。こここの石窟群はどこもみな真っ暗です。

「ブッダ、シャルナン、ガチャーミン」「ブッダ、シャルナン、ガチャーミン」と工コーが起こり、ブッダ、ブッダ、ブッダと共に鳴すべく開削されていたすごい石窟だつたのです。いつしか私も「ブッダ、シャルナン、ガチャーミン」と合掌を始めると、その窟の男はやわらいだ顔つきとなり、その灯明を持って仏舎利の裏側へと案内してくれました。その裏側にはこれまで素晴らしい仏像があり、拝することができました。

いま思えば、その男は、暗闇の中で私の行動をじつと見ていたのだと思います。そしてその石窟の隠された素晴らしい光景をなく去ろうとする私への思いやり、また、その石窟を預る者の心くばりからとつた、精一杯の行動だったと思ひます。これも旅ならではのありがたい感動でした。

とにかく忙しい生活の中で、私たちが忘れがちな他人への思いやり、心くばりの豊かさに気づかされた、旅に思う今日このごろです。

(岡崎女子短期大学副学長)

ところがある石窟に入ると、窟内正面の仏の前に幽かにゆらめく灯明のローソクが供えられ、その光に浮かぶ彫像の美しさにはひどくひきつけられました。夢中で拝し写生して去ろうとすると、突然行を出迎えてくれた現地旅行社の人と、その通訳の少女は待ちかくびれて、かなり苛立つていています。それは、ホテル迄のその旅行社の人の厳しい表情でうかがえます。やがて天水賓館ロビーでふつと気がつくと、その通訳の少女は、我々一行の疲れた婦人の荷物を持ち、つ

その仏舎利の裏側へ引き入れようとした。私が突然の恐怖に襲われておもわず画帳を落とすと、その男は急いでそれを拾い上げ、仏の前へ置き、手を合わせて祈り始めます。私が唚然としていると、祈りの声は一段と深く工コーを響かせます。

先生、そんなのおかしいよ

図工・美術科指導員

早川正春

「これ、先生がつくった人物の走っているところ」

と、教卓の下から取り出した作品。それは、動きのない、直立した格好の人物像であった。

三年「ようい、ドン」の授業である。本時は、前時の粘土との触れ合いを通して身につけた技術や技法を基に、動きのあるボーズを製作する時間である。

「エエー、先生、そんなのおかしいよ。」「もっと手が曲がっていなくなっちゃ。」「足も、もっと広がっていなきや。」

参考作品と対面して、自分の目と体験から、疑問と批評の思いを込めた第一声である。

これらのがやきをもとに、「どうしたら走っているようになる」と、教師の問いかけ。子どもたちは、参考作品の不適切な部分を指摘しながら、教師はそのつぶやきや動作を確かめるよ



ふるさとシリーズ この人に聞く



養蜂

土屋 忠一 氏

現在、岡崎養蜂組合長として活躍してみえる土屋忠一氏を西本郷町の自宅に訪問した。玄関先には巣箱が積まれ、庭に咲いているつづじのまわりを数匹の蜂が飛んでいた。養蜂家ならではの雰囲気が感じられる。居間に案内されお話を聞いた。七十九歳とは思えぬ、かくしやくとした口調で蜂との出会いを語られた。

〔昭和十二年、二十七歳の時でした。養蜂をしてみえた近所の方に、巣箱一箱を分けてもらいました。それが、この道に入ったきっかけです。しかし、その遠因には、私が子供の頃から蜂蜜

を愛好していたことや、安城実業修学校に通っていた時、先生に「これから農業は多角的にやらなければ」ということを教えていただいたことが頭の中に残っていたこともあります」

「昔は、矢作の地にもナタネやレンゲがたくさんあり、それなりに生計を立てていくことができました。しかし、今はできません。農業の形態が変わり、養蜂にとって一番大切な蜜源がなくなってきたからです。養蜂をやめてしまわれた方もありますよ」

現在は転地養蜂をされているとのこと。

「主に、長野県下伊那郡にある平谷村へ行きます。朝五時過ぎに家を出発する」と八時頃に着きます。そこで二日間ほど巣箱を置いて、また帰ってきます。

「まあ、こういうことが苦もなくできるのは、この仕事が好きだからです。損得を考えたらできません。もつとも、最近では、蜜をとるために花粉交配のために蜂を放して欲しいという依頼が増えました。虫が少なくなり自然の花粉交配ができないくなっています。だからです。イチゴやナシ、クリの木に対しても行つたことがあります」

「蜂を友とする仕事の魅力を伺うと、蜂は正直です。蜂ほどの働き者はいません。こちらが蜂のことを思えば思う

ほど働いてくれます。そんな蜂の姿を見ていると、私も働くべきだと思います。蜂は私の鏡になっています」

居間の壁面には、数々の表彰状に並んで「希望を持ち、努力して、感謝の日を送る」と記された額が掲げられていた。

座右の銘だそうだ。常に夢を持って生きたい、自分の仕事に誇りと生きがいを持つ全力であたりたい、生きていられる

ことに感謝して過ごしたいと話される。年を感じさせぬ若さの秘密に触れた思いがした。

（生年月日 明治四十三年八月二十日）
住 所 岡崎市西本郷町北岩戸三



うに、運動している様子を収めたビデオを、視点を明確にして視聴させた。こうした一連の流れの中で、子どもたちは無意識のうちに本時の目標をつかみ、自分たちが模範とするようにならなければならない段階である。授業時間の大部分を製作時間にむだねなければならない技能教科の特性から、特に心して取り組まねばならない段階もある。

導入段階における参考作品の提示は、有効な手立てとして広く用いられている方法である。しかし、その多くは、子どもたちが模範とするようにならなければならない周到な準備。さらに、子どもたちが模範とするようにならなければならない周到な準備。さらに、子どもたちが模範とするようにならなければならない周到な準備。

動きを的確に把握した発問が、授業成績の基となっていることを忘れてはならない。本時でみられた参考作品、動画化、VTR。これらの一つひとつを単独に扱つても導入の指導として十分に通用するが、教師の意図、子どもの実態に合わせて重層的にセッティングすることで、それらの効力を増幅することを実証した授業であった。導入の工夫と、学校や地域の特色を生かした題材の掘り起こしや表現意欲が持続する授業過程を工夫することで、子どもの創造性はとめどなく広がる。

緑とふれ合い

緑に学ぶ

—学校環境緑化日本一

大門小を訪ねて—

1

学校環境緑化というと、すぐに校舎の周りに木を植えることや、挿し木をして苗木を育てることだけを思い浮かべてしまふ。しかし、本当はそうではない。

自然は、たくましくして、命の尊厳さ、たくましさを教えてくれる。子どもたちは自然に親しみ、自然の中で考え、行動するなどのさまざまな体験を通して、豊かな心とたくましく生きる力を身につける。

学校環境緑化も、こうした自然から学ぶ教育の一環として位置づけたい。

現在、岡崎の小中学校には、卒業していった多くの子どもたちや先生方の手によつて沢山の樹木や草花が植えられている。

自然の環境に恵まれている学校も多い。

このことは、緑を「つくる・植える」活動や「育てる・守る」活動が充実しているということである。そして、これから緑に「親しむ・学ぶ」活動の必要性をも示唆している。換言すれば、学校環境としての緑を、どのように教育活動の中に取り込んでいくのか、ということが今後の課題であると言える。

幸い、岡崎の緑化教育は全国的にも高い評価を得ている。先進的な取り組みをしている学校も数多くある。

そこで、今回はその中から、平成元年度学校環境緑化日本一に輝いた大門小学校を訪問し、これから学校における環境緑化運動のあり方を示唆していただきたい。

緑がもえるこの季節、緑化教育について考えてみたい。

① 緑とふれ合うことで、豊かな心を育むことを願い、校庭に「大門つ子の森」を作った。

そこには、岡崎市に分布する樹木を五十三種、五百五十本植えてある。すべて落葉樹で構成し、季節感あふれる森である。

② 単に緑陰を利用しての音楽の授業ではない。学区にある公園や、池や、鳥や、草花で語り合い、大自然を感じての創作活動である。

自分たちの思いを音で表現する。詩で表現する。自然の中で、自然と対話しながらの創作活動で、本当の楽しさを感じて、身につけていく。

2

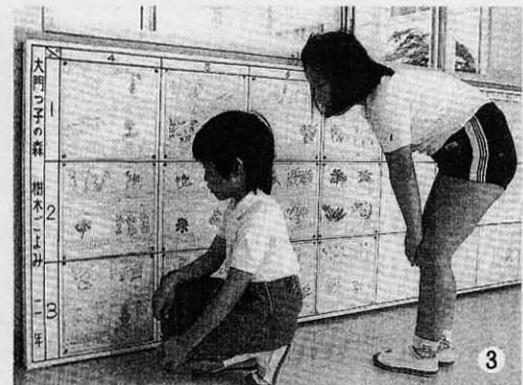




⑤



④



③

③ 「旬」を知らない子どもたち、自然から隔離されてきている今の子どもたちに、樹木の観察を通して、自分たちがそれぞれ一枚一枚描いて作った「樹木暦」は、季節をはつきりと感じさせてくれる。

④ 子どもたちが、「大門つ子の森」で、樹木を見てスケッチをし、メモをとる眼差しは真剣である。

⑤ 図工科では、子ども自身が自分の木を選び、その木の名前を調べ、名札の形を考え、その木に名札をつけた。

こうした活動から、作る喜びや、樹木への関心が高まっていく。



⑥



⑦

⑦ 「草花で遊ぼう」

子どもたちは、ゲーム機やファミコンなど既製品のおもちゃで満足している。だが本来、子どもの遊びは、生活や自然の中から見つけだし、工夫して創りだしていくとき、その楽しみは倍加する。

⑧ 茶摘み。収穫の喜びを味わうことで勤労体験学習は一層豊かな心情を育てる。

こうした活動から、作る喜びや、樹木への関心が高まっていく。

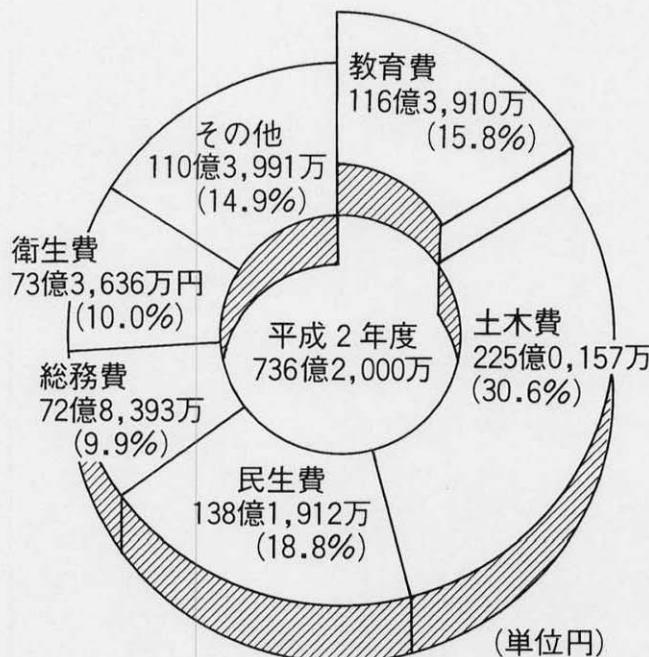


⑨



⑩

〈一般会計予算〉



◆ズームアップ◆

- ①義務教育施設の整備
- 校舎増改築 小学校一校
- プール建設
- 中学校一校
- 中学校二校
- 大規模改造 小学校二校 (新規)
- ②教育用備品の充実
- ③新編岡崎市史編さん事業
- ④私立幼稚園入園料補助
- ⑤六ツ美地区新設中学校用地取得 (新規)
- ⑥美術館・博物館建設事業 (新規)
- ⑦城址めぐり事業 (新規)
- ⑧パソコン設置事業 (新規)
- ⑨英語講師招致事業 (新規)

“夢と希望に満ちた

香り高い文化をめざして”

岡崎市の教育予算



河合中 (平成元年度)

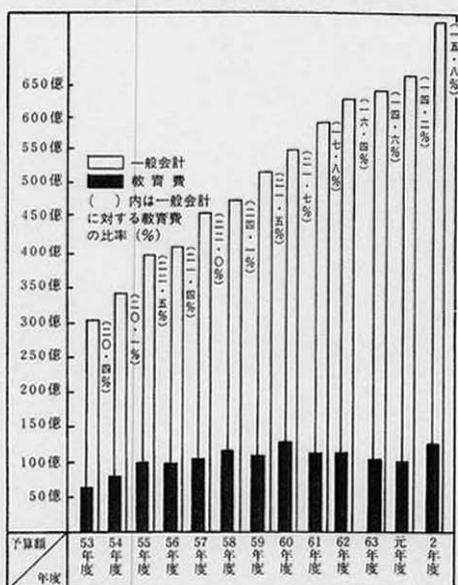


秦梨小 (平成元年度)

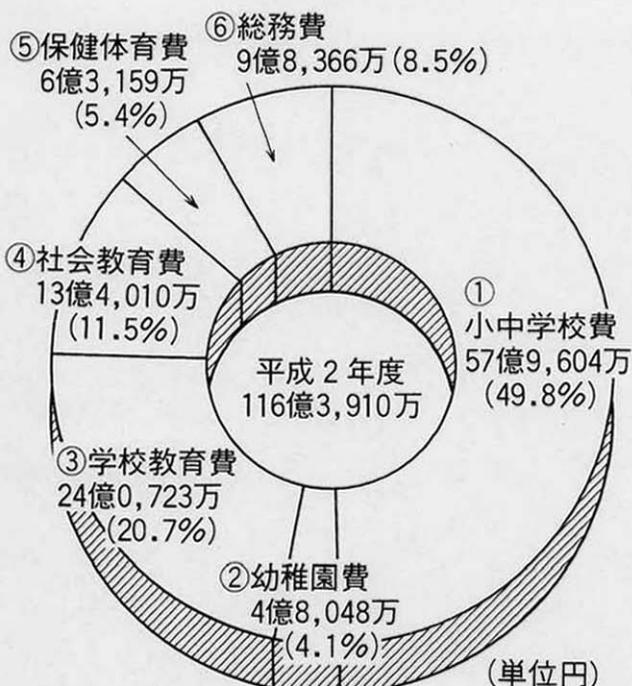


上地小 (平成元年度)

◆一般会計予算額と教育費の推移◆

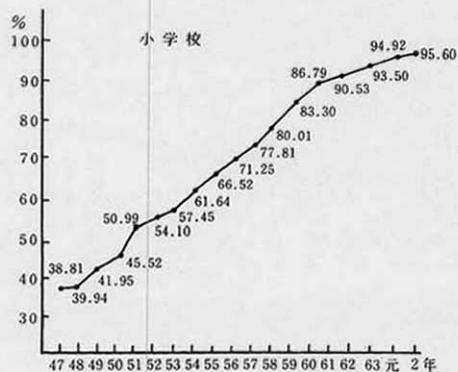


<教育費の内訳>



◆校舎鉄筋化率の推移◆

数字は各年5月現在の百分率



①小中学校費

- 平成2年度義務教育施設整備
 - ・校舎増改築（矢作北小、竜南中、新香山中）
 - ・プール建設（矢作南小、甲山中）
 - ・大規模改修（連尺小、広幡小）

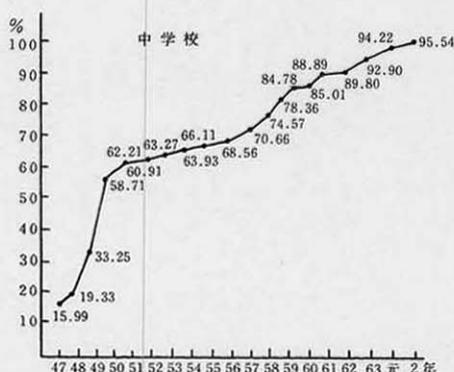
②幼稚園費 園舎増改築（矢作幼）等施設整備など

- ③学校教育費 「岡崎教育史要Ⅳ」編集事業
英語講師招致事業
ハートビア岡崎の運営など

④社会教育費 美術館、博物館建設事業
図書館、美術館の運営など

⑤保健体育費 学区運動広場造成

- ⑥教育総務費 新編岡崎市史編さん事業
私立幼稚園入園料補助など



常磐南小（平成元年度）

○種目別順位

種目	性	優勝	2位	3位
陸上競技	男	竜海	矢作北	竜南
	女	矢作北	甲山	南
バスケット	男	城北	竜海	甲山
	女	六ツ美	葵	美川
バレーボール	男	東海	新香山	甲山
	女	竜南	矢作	竜海
軟式庭球	男	福岡	新香山	岩津
	女	福岡	矢作	城北
卓球	男	南	矢作北	常磐
	女	常磐	美川	六ツ美
体操	男	東海	六ツ美	竜海
	女	竜海	六ツ美	矢作
新体操	男	六ツ美	東海	竜海
	女	竜海	矢作	六ツ美
剣道	男	六ツ美	常磐	葵
	女	六ツ美	北	竜南
ハンドボール	男	美川	葵	六ツ美
	女	新香山	美川	竜南
柔道	男	竜海	新香山	六ツ美

○体操競技

男子	氏名	校名	女子	氏名	校名
個人総合	神本義浩	東海	個人総合	柳内綠	竜海
床運動	野々山貴久	東海	床運動	野村恵美	竜海
鉄棒	神本義浩	東海	平均台	鈴木常子	六ツ美
跳箱	天野貴文	東海	跳箱	榎原由紀	甲山

・野球・ソフト・サッカー・水泳は7月号に掲載します。

教育岡崎大会の会場校として、視聴覚機器を実践が評価されたものである。このことは、甲山中学校は、昭和六十三年度松下視聴覚賞受賞者を受けた井田小学校はじめ各校の視聴覚教育の研究の成果が実を結び、今回の視聴覚賞の受賞につながつたと言える。

甲山中学校は、昭和六十三年度松下視聴覚教育研究賞の授与式で行われた第一回松下視聴覚教育研究賞の授与式で本市甲山中学校の論文「生気溢れる授業の確立―視聴覚機器の活用から―」が文部大臣賞を受賞した。論文は、「導入に役立つ自作ビデオの制作・活用」と「生徒にも利用できるメディアセンターの整備」を中心によどめられている。

●児童・生徒・教職員数の実態

区分	学校数	学級数 (特殊)	児童・生徒数			校長・教職員 (非常勤講師を含む)			養護教員	事務職員	栄養職員
			男	女	計	男	女	計			
小学校	41	784(36)	12,942	12,510	25,452	503	550	1,053	41	43	6
中学校	17	376(21)	7,156	6,935	14,091	439	223	662	17	21	11
合計	58	1,160(57)	20,098	19,445	39,543	942	773	1,715	58	64	17
元年度計	58	1,156(55)	20,493	19,882	40,375	946	798	1,744	58	64	17

●学年別児童・生徒数

小学校				中学校			
学年	男	女	計	学年	男	女	計
1年	2,155	2,028	4,183	4年	2,081	2,103	4,184
2年	2,092	2,027	4,119	5年	2,222	2,175	4,397
3年	2,100	2,009	4,109	6年	2,292	2,168	4,460
				3年	2,378	2,452	4,830

第三十四回
岡崎市中学校
総合体育大会の記録



○陸上競技

「新」は大会新記録

男子	記録	氏名	校名
100M	12"0	岩柿忠典	南
1年 100M	13"0	森宣博	竜海
200M	23"9	中島智信	竜海
400M	新 52"4	西畠匡	竜海
800M	2'13"1	鈴木昌哉	竜海
1年 1500M	4'56"8	富田智久	東海
2年 1500M	新 4'31"1	天野康孝	竜海
3000M	新 9'34"1	鈴木亮二	矢北
110MH	17"4	鈴木英児	福岡
800MR	新 1'36"1	野本荒木・西畠・中島	竜海
低 400MR	50"5	池田・西谷・戴原・西谷	矢北
走幅跳	6M19	石井和人	常磐
走高跳	1M70	柏崎友貴	新香山
砲丸投	15M62	熊坂誠	美川
棒高跳	3M20	細井秀雄	美川
女子			
100M	13"6	柴田柚子	甲山
1年 100M	14"4	中山陽子	竜海
200M	26"9	宇佐見牧子	矢北
800M	2'29"6	宮崎麻貴子	美川
1500M	新 5'13"5	磯部礼子	竜海
100MH	16"4	瀬瀬陽子	南
400MR	52"7	長谷川・宇佐見・石田・岩川	矢北
低 400MR	55"8	石田・野村・玉置・中村	常磐
走幅跳	4M94	石田亜友美	矢北
走高跳	1M50	牧野文子	新香山
砲丸投	11M61	魚野恵子	矢北

平成2年5月1日現在

●学校・学級の規模

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	621人	829人
1校当たり学級数	19学級	22学級
1学級当たり児童・生徒数	33人	38人

• 表紙写真
• 表紙詩
• カット

竜南南
海中中
高橋高橋
小夜子美孝誠

日本に国語教育が採り入れられたのは、明治五年、学制発布以降である。「国語科」という名称の教科が登場するのは、明治三十三年、小学校令の改定によってである。国語教科書は、明治二十七年発行の「讀書教本」と、同三十三年発行の「國語讀本」である。

表題を比較すると、後者には、「尋常小學校國語科兒童用教科書」と付記されており、「国語科」として新しく発足した年に現・理解」に「言語要素」を織り込んだものとなつていて。

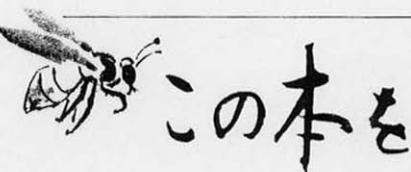
記述の文体を見ると、前者は文語文であるのに対し、後者は口語文で書かれており、変化が見られる。表記では、両者とも片仮名・平仮名と漢字交じりで書かれており、明確な区分はなかつたようである。掲載内容は両者とも日常教訓的なものが多く、国の行事や国旗についても取り上げられている。

「読み方・書き方・綴り方」を内容として始まつた国語科は、幾度かの変遷を経て、現在「表現・理解」に「言語要素」を織り込んだものとなつていて。



山中小学校

明治の国語教科書

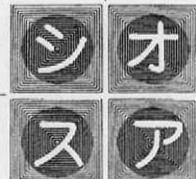


* 日本語への処方箋	高田 宏
創拓社	¥1300
* 子どもと自然	河合雅雄
岩波書店	¥ 520
* 家族という名の幻想	秋山さと子
PHP研究所	¥1000
* どの宗教が役に立つか	ひろさちや
新潮社	¥ 720

真の個性教育とは	梶田観一
国士社	¥1200

個性をめぐる論議の中で、学校サイドから聞かれるのは、個性論と個性教育の実践との聞きが大きく、その両者をどうつなぐかという声である。

本書は、こうした両者の隔たりを埋める格好の案内書である。学校は、個性教育を実践していく上で、いかなる姿勢で臨んだらよいか、どんな方法で対処していくのか。教師の在り方、個と集団との関わり、カリキュラム等、実践上の問題について、多面的にメスを入れている。



すべり台に、ぶらんこに、一年生の歓声が上がる。やつと学校生活に慣れ、友だちと外で遊ぶようになった子供たちの顔には、教室では見られない生き生きとした表情がある。

自然とのかかわりを通して子供たちを育てる教育活動を取り材する機会を得た。校舎の鉄筋化が進み、施設・設備が近代化される中につれがちになってきた自然に働きかける施設・設備が近代化される中につれてきた自然があつた。自然は偉大な教師である。自然から学ぶ謙虚な心をいつまでも持ちたい。

遊びの時間は貴重なひとときである。家に帰つてから外で遊ぶ機会が少なくなってきた現代っ子にとっては、学校で